

今回は、11 月 15 日(水)に行われた「防災講演会」についてお知らせします。

【講演会】

<概要>

11 月 15 日、6 校時を拡張して、防災講演会が行われました。講師には、市民活動団体「わしん倶楽部」代表の田中勢子さんをお招きし、災害時の対応や日頃の備えについて、防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を通して講演していただきました。田中さんは、防災士・減災コーディネーターで、様々な場所で地域防災のために尽力されています。



クロスロードは、仙台市地域防災リーダーの方々や東北大の先輩方のサポートのもと、1 班 7 人のグループディスカッション形式で行われました。

<クロスロードとは>

文部科学省が進める減災プロジェクトの一環として開発された災害対応カードゲーム教材で、開発にはわしん倶楽部顧問、慶応義塾大学教授の吉川肇子さんも参加されています。「クロスロード」という名前には「重大な分かれ道」「人生の岐路」という意味があり、災害時に陥るジレンマのことを表しています。阪神・淡路大震災の事例をもとにした「神戸編・一般編」をはじめ、「市民編」「学校安全編」「大学生編」などが作成されています。災害時に迫られる様々な「選択」の選び方を複数人で考えあらかじめ共有しておくことで、実際の災害被害の軽減を目的としています。

この講演会では、7 人の班に分かれて、示された状況に対して個人で Yes か No かを選び、班内で意見を共有・議論しました。その後、代表数班が 1 学年全員に向け、班でまとめた意見を発言していました。

<活動の様子>

ゲームでは、それぞれの班で議論が活発に行われ、皆が自分なりの考えをしっかりと持ってゲームに臨んでいるようでした。付箋に書き出された意見には面白かったり奇想天外だったりするものもあって、自分の意見との違いを深く考えるよいきっかけになっていたようです。また、中には Yes と No のどちらか



に極端に偏っている班もあり，班単位での違いもよく見られました。

どの問題も正解が用意されていないため結論が無く，だんだんと問題が難化していきました。問題は「あなたは受験生です。他に若い人がいない避難所で，勉強と手伝いどちらを選びますか。」「あなたは避難所にいます。食料を持っていない人の前で，あなたは非常用持ち出し袋をあけますか。」など，全部で4問ありました。特に「あなたは食料担当の職員です。避難所で人数分用意できていない食料を，あなたは配りますか。」という問題は，Yes と No それぞれの短所も考えなければならず，より考えるのが難しくなっていました。

皆お互いに意見を出し合い，とても有意義な議論が行われていました。

<生徒の感想>

- 一つの状況に対して異なる選択の仕方があって，生徒間の意見交換が充実していた。
- 自分にはない発想を周りの人が次々としてくれたので，非常に楽しく進めることができた。
- 防災の大切さがよく分かったが，結論がないので結局何が言いたいのかわからなかった。
- 小中学生の時にやったことがあったので懐かしかった。
- 備蓄の大切さなど，自分では普段あまり気にしていなかったことに気づくことができた。
- まだ私は他人のために献身する気持ちと自分の欲の均衡がとれていないと思った。
- クロスロードは災害時の知識の伝承や対応を考えることについて大きく寄与できるものだった。



【編集後記】

今回の防災講演会は，「クロスロード」を中心としたワークショップ形式で行われ，今までの講話に比べて生徒ひとりひとりが主体的に取り組んでいる印象を受けました。考える時間は短く，意見をまとめる事に苦労しましたが，これで自分の意見をまとめたり発信する力が付き，良い経験になったのではないのでしょうか。

私たちが経験した東日本大震災のように，災害はいつ起こるかわかりません。その被害を最小限にするためには，日ごろから防災について考えていく必要があります。この講演会をきっかけとして，二次被害の軽減も含んだ防災について考えていきましょう。